

講演会

フレーム 3.0

— 人間のコンセプトはすべてフレームか？ —

日時 2019年9月11日(水) 16:00~18:00

会場 東京外国語大学 語学研究所(研究講義棟4階419号室)

講師 **ゼバスティアン・レープナー**
(Prof. Sebastian Löbner; デュッセルドルフ大学特任教授)

演題 **Frames 3.0 – Sind alle menschlichen Konzepte Frames?**

講演言語 **ドイツ語 (日本語通訳付き)**

講演要旨

「フレーム」は最近、言語学でますます注目を集めている。これは、ほぼどのようなものも記述対象とすることができる非常に一般的で精密に定義されフォーマットである。言語学での応用範囲は語彙意味論や構成主義意味論、統語論、形態論、音韻論など多岐にわたる。「フレーム」という概念の起源は1960~70年代の認知科学や言語学的意味論、人工知能の研究に遡り (=フレーム 1.0)、Barsalou (1992) による発展・整備および厳密な定義づけを経て (=フレーム 2.0)、現在ではフレームを形式化する理論を開発したデュッセルドルフ大学の学際的研究チームがこの仮説をテストする段階に至っている (=フレーム 3.0)。

本講演は、フレーム概念をインフォーマルに紹介するもので、日常や言語学に由来する多数の事例を提示する。フレーム概念は上述のとおり Barsalou の認知科学理論に遡るが、Barsalou が打ち立てたフレーム仮説は、「人間のコンセプトはすべてフレームである」というものである。

このフレーム仮説が正しいとすると、これが言語学にもたらす影響は極めて大きい。というのも、この仮説の予見するところでは、語の意味や統語構造、言語音などの極めて異なる現象が統一的なフォーマットで記述可能となるからである。本講演では意味論と統語論から事例を挙げて解説する。

参考文献

Barsalou, Lawrence W. (1992), *Frames, concepts, and conceptual fields*, in A. Lehrer and E. F. Kittay (eds.), *Frames, fields, and contrasts: New essays in semantic and lexical organization*. Lawrence Erlbaum. Hillsdale, NJ. 21–74.

参加自由 / 事前申込不要 / 入場無料



東京外国語大学 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

【アクセス】

- ◆JR中央線「武蔵境」駅で西武多摩川線に乗り換え「多磨」駅下車、徒歩5分 (JR新宿駅から約40分)
- ◆京王電鉄「飛田給」駅北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分、「東京外国語大学前」下車



【交通アクセス】